

広報誌

## うえるふえあ

55号

2012.4.27

発行 社会医療法人慈生会広報委員会 鹿児島県枕崎市白沢北町 191 番地 TEL (0993) 72-0055

2012年度  
経営方針発表会

3月3日土曜日に、毎年恒例の経営方針発表会が開催されました。まず初めに参加者全員による経営理念の唱和を行い、その後、理事長・院長の鮫島秀弥より医療の社会情勢や今後予想される医療改革等が話され、今年度の基本方針が発表されました。内容は次のとおりです。

## 2012年度 基本方針

1. 診療報酬・介護報酬の同時改定への対応
2. デイケアの充実・稼働率向上
3. 研修病院機能の充実（指導体制・指導者育成）  
－医師、Ns、薬剤師、OT、CP、PSW、etc－
4. 思春期疾患への対応強化（継続目標）
5. 医療の原点の再確認

（医療安全・感染予防対策・褥瘡対策・行動制限最小化・リスクマネジメント）

さらに、上記の基本方針に沿った各部門の詳細な目標が発表され、今後1年間のさらなる飛躍と目標に向かっての一致団結を参加者全員で誓いました。

次に、前年度の目標に対して各部門の実施状況が報告され、電子カルテの導入に伴い、忙しい年であったにもかかわらず全体的におおむね目標を達成しており、法人としても2011年度は有意義な1年を終えたのではないかと思います。（事務部長 日渡良二）

## 経営理念

- 患者様の健康回復に努め、もって患者様の生活安定と幸福に貢献すること
- 地域住民の健康維持管理に努め、もって地域社会の発展に貢献すること
- 職員の生活向上と幸福をはかること

## 基本方針

- ◇ 患者様に満足してもらえる医療を提供します
- ◇ ストレス社会と高齢社会に対応した専門医療を提供します
- ◇ 地域医療に対応したプライマリーケア機能を高めていきます
- ◇ 高い技能と優れた人格を併せもった人材を育成します

## 平成 23 年度 鹿児島県精神障害者地域移行支援特別対策事業

今年度、鹿児島県精神障害者地域移行支援特別対策事業の委託を受け、事業運営を担当させていただきましたので、本事業について、事業の流れや事業から見てきた南薩圏域の課題等も踏まえ、ご報告させていただきます。

本事業は、鹿児島県全域の 8 障害福祉圏域において、相談支援事業者（医療法人）等に委託して実施され、精神科病院に入院されている精神障害者の方々が可能な限り地域において生活ができるよう必要な支援を行っていく地域移行支援事業になります。

### ☆事業対象地域（6市）

枕崎市・指宿市・日置市・いちき串木野市・南さつま市・南九州市  
（管轄保健所・・・加世田保健所、指宿保健所、伊集院保健所）

### ☆事業協力病院（10病院）

枕崎市・・・ウエルフェア九州病院  
指宿市・・・赤崎病院、指宿竹元病院、西田病院  
日置市・・・伊集院病院  
いちき串木野市・・・みなと病院  
南さつま市・・・阿多病院、加世田病院  
南九州市・・・児玉病院、知覧保養院



### ☆構成員（協議会設置時 46名）

事業協力病院	10 病院
相談支援事業所	6 か所
民生委員	6 市
精神障害者家族会	役員等
各市（障害福祉係等）	6 市
地域振興局	3 圏域
事業事務局	地域活動支援センター うえるふぁあ

### ☆事業の流れ（具体的な事業展開）

7月	地域移行支援研修会
8月	地域移行支援特別対策事業打ち合わせ
9月	第 1 回地域移行支援協議会 ・ 支援予定者の個別支援報告 ～支援内容の確認、退院先の検討等～ ・ 前年度のワークショップで出た意見に対する具体的な取り組み ・ 圏域毎の顔合わせ、退院予定先の関係機関との顔合わせ
10～12月	各協力病院の個別支援会議
12月	第 2 回地域移行支援協議会 ・ 支援対象者の個別支援経過報告 ・ グループワーク ～本事業の 1 ケースから見る、地域移行支援の視点を討議～
3月	第 3 回地域移行支援協議会 ・ 支援対象者の個別支援報告（本事業の最終報告） ・ ワークショップ ～精神障害者の地域移行にむけて～ 精神障害者地域移行支援関係者研修会

\* 各協議会の前後で打ち合わせ実施

## ☆支援対象者 11 名（男性 7 名、女性 4 名）

### ☆退院阻害要因

- ・ 住居の確保（退院する場所がない）
- ・ 長期入院による日常生活能力の低下
- ・ 家族の協力が得られない
- ・ 地域住民の受け入れ拒否
- ・ 本人の退院意欲が持続できない
- ・ 病識の欠如や治療意識の低さ 等



### ☆協議会における構成員の意見等（一部抜粋）

- ・ 民生委員さん方にも、自由な意見を述べて欲しい。医療側の話だけではもったいないです。現場はあくまでも地域あると思います。
- ・ 退院に際しての「家族の理解、協力」が大きな要素になっているが、言葉を替えれば、それは「家族の負担」を認めるということ。家族にとっての負担は、経済的、物理的な犠牲を強いられるものである。退院促進が、家族支援と併行すべきこと、地域の社会資源への助成を含むものでありたい。
- ・ 関係機関とのつながり、何かあった時ではなく、日常的に情報交換を行いながら、取り組む最初の段階からの協力的な構築の必要性を痛感しました。
- ・ 地域の中での理解者を増やすことや啓発のプログラムを考えていかなければと思いました。
- ・ 各協力病院の取り組み方が大変勉強になりました。私ならどう対応するか？と自問しながら聞いていました。

### ☆協力病院開催の個別支援会議

- ・ 実施；9 病院
- ・ 参加人数；16 名～7 名
- ・ 参加者；本人、家族、病院職員（主治医、看護師、作業療法士、薬剤師、栄養士、事務職員、デイケア職員、訪問看護職員、地域移行推進員等）関係機関（行政、市保健師、相談支援事業所等）事業関係者（保健所コーディネーター、事務局）

☆退院前訪問等、地域で行われた会議には、民生委員等地域の方々も参加されている。

### ☆今年度、南薩地域での取り組みから見えてきたもの

- **事業から見えてきた課題 ～構成員の意見より～**
  - ・ 地域移行や精神障害者への理解を促す活動をもっとするべき。
  - ・ 地域への働きかけ、地域づくりの視点がなかった。
  - ・ 協力を得にくい状況の中で、いかに患者様、家族、地域、病院、関係機関が常時つながりを保つか。
  - ・ 支援対象者を担当している病棟スタッフについては、ある程度地域移行の考え方が理解できたと思うが、病院全体で考えるとまだまだ意識が低い。  
⇒ 今回見えてきた課題を、どう改善していくか？
- **事業を通して得られたこと ～構成員の意見より～**
  - ・ 顔が見える関係になり、連携が回りやすくなった。
  - ・ 各地域や病院の取り組みが分かる。
  - ・ これまで家族との接点が少なかったが、今回の事業を通して家族交流が増え、関係の回復が見込めた。
  - ・ 本人自身が多くのことを自己選択、決定する状況に置かれ、変化の少ない入院生活の中で刺激になったようであった。退院に向けて新しいことに挑戦しようとして本人の前向きな発言や行動が見られた。
  - ・ スタッフ間での退院に対する意識が高まり、病院内で退院支援プロジェクトを立ち上げ



ることへ繋がった。

⇒ 今回得られたものを、どう定着させていくか？

○ 来年度以降の取り組むべき課題として

- ・ 地域移行支援の個別給付化への対応
- ・ 自立支援協議会への精神科病院の参加、精神部会の立ち上げ
- ・ 地域づくり、家族支援の具体的取り組み

⇒ 本事業でつながった関係を活かす。支援者が孤立しない連携を図る。地域で支える体制づくり、地域づくり。

事業を実施していく中で、たくさんの方にご協力頂き、事業に取り組んでいただけたことは、事務局はもとより、協力病院の地域移行推進員の皆様にとっても、支援対象者になられた方にとっても、心強かったことと思います。本事業の課題としてもあげさせていただきましたが、今後も本事業で得られた『つながり』が途切れることなく、どのように継続していくかが、地域移行支援にとって大きな鍵となるのではないかと考えております。精神障害者の方が、地域で生活していくためには、まだまだ課題が多く残されています。精神障害者の受け皿としての地域づくりにおいても、多機関で取り組んでいく必要があります。地域移行支援事業は、今年度から個別給付となりますが、一つひとつの課題に取り組むにも、多機関の協力なしには実現しないものと思います。本事業を通し、多機関との連携の意義、またその必要性を改めて感じ、地域移行支援に当たり今後とも御協力をいただきたいと思いますと考えておりますので、何卒よろしくお願い致します。

本事業の運営にあたり、御理解御協力のもと支援協力いただきました多くの機関の皆様、地域の皆様に、また本事業により退院を目指された御本人と、御本人を一番近くで支えて下さる御家族に、この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

地域活動支援センター うえるふぁあ

## 地域移行支援事業ウエルフェア九州病院の取り組みについて



長期  
入院



地域  
生活



「地域移行支援事業」とは、統合失調症などの精神疾患により、これまで長い間入院を続けざるをえなかった方々に対し、専門のスタッフ（「地域移行推進委員」といいます）が、退院や地域での生活へと移れるようお手伝いする事業です。必要に応じて各市町村役場の福祉担当者や保健所職員、相談支援事業所、民生委員とも連携をとりながら、ご本人様が安心して地域で生活できるようサポートしていきます。

平成 23 年度、当院では 1 名の患者様を対象に事業に取り組ませて頂きました。こちらの力不足で退院や地域生活には至りませんでした。ぜひ今後につなげていきたいと考えています。

# 定期講演会を開催しました



3月3日に、ウエルフェア九州病院第16回定期講演発表会を行ないました。鹿児島大学大学院臨床心理学研究科副研究科長松木繁教授をお招きし、『“健康に生きる”ということーリソース志向の健康科学とストレスマネジメント教育ー』というタイトルでご講演頂きました。

ストレス社会や現代社会の閉塞感とストレスの現状から学校や職場におけるメンタルヘルスの重要性が増していることを知り、対人援助職である私達がまず自らのメンタルヘルスを保つことが必要であると感じました。さらに、心身や社会の中にあるリソースを促進し、すでに持っている能力と自己治癒力を引き出すという視点から健康を考えることの大切さを知ることができ今後の業務や自分達の生活に新たな視点を得ることができる貴重な機会となりました。

# 研修会を開催しました

2月21日、昨年に引き続き鹿児島大学大学院臨床心理学研究科の地域支援プロジェクト事業にご協力いただき、対人援助の専門家のスキルアップを目指すことを目的とした研修会を実施しました。今回の研修では発達障害者支援法の制定以降、発達障がい者の乳幼児期から成人期までの各ライフステージに対応する一貫した支援が求められているという社会的な背景を考慮し、『発達障がい児・者への支援について～地域での生活を支える～』というテーマを設定しました。鹿児島大学大学院臨床心理学研究科准教授の服巻豊先生に講師をお願いし、病院と学校が連携して支援した事例をもとに、実際にどのように連携を図っているか、発達や障がいの特性をどのように捉えていくかなど具体的な解説をしていただきました。またソーシャルストーリーズという発達障がい者・児の支援に対する新たな視点もご教示いただきました。

当日の研修会では至らない点多々あったと存じますが、多数のご参加をいただき誠にありがとうございました。貴重なご意見やご感想を頂きました。ウエルフェア九州病院では、地域の各機関と連携を図りながら、心の悩みを持つ方やそのご家族への支援を行なって行きたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。





# 第19回コスモス会のご案内



初春の候、日増しに春らしくなってまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。早速ですが、第19回コスモス会（認知症家族会）の開催が、下記の通り決定しましたのでご案内いたします。ご多忙とは存じますが、多くの皆様にご参加いただきますようお願い申し上げます。

日 時： 平成24年5月26日（土） 13：30～15：30  
（13：00より受付を行います）  
場 所： ウエルフェア九州病院内 第2・第3会議室（2階）  
内 容： 講 演：「認知症の方への薬物療法と対応の仕方について」  
講 師：田中 直哉 氏（第一三共株式会社）  
座談会：日頃の出来事や悩みをみんなで語り合い、学びあい、共に笑いあう場です。  
対 象： 当法人の病院・関連施設をご利用の認知症患者様のご家族

## お役立ち レシピ



今回のレシピは病気や老化により噛む力が弱まった咀嚼困難な方でも食べやすいように工夫した「柔らかのし鶏」を紹介します。

### 柔らかのし鶏

柔らかのし鶏は、鶏ひき肉に豆腐を加えることで柔らかくなり、また一般的なのし鶏はオーブンなどで焼きますが、蒸すことによりさらに柔らかく仕上がります。このメニューは当院の刻み食の患者様にお出ししているメニューで、できるだけ形のある物を提供したいとの思いから考えたメニューです。

#### <材料>

鶏ひき肉	30g	豆腐	40g	深ねぎ	5g	玉ねぎ	25g	青海苔	適量		
味噌	5g	砂糖	1.5g	濃口醤油	少々	酒	少々	味りん	2cc	塩	少々

#### <作り方>

- ① 深ねぎと玉ねぎをミジン切りにし、玉ねぎは油で炒めておく。
- ② 豆腐を水切りし、フードプロセッサーにかける。
- ③ ボールに鶏ひき肉と②の豆腐を入れ、青海苔以外の材料を加えよく混ぜ合わせる。
- ④ バットにラップをひき③を平らに詰め蒸し器で約40分位蒸す。





## 3月の行事食 ひな祭り料理

3月の行事食は滋養強壮と腸内環境を整える薬膳料理です。

### レストラン課



**和え野菜の黄身酢かけ**  
胡瓜・ワカメ・玉ねぎ・  
トマト・海草・エビ・  
薄焼き玉子・紅花

**水菓子**  
苺フルーチェ

**華散らし寿司**

**炊き合せ**  
高野豆腐の含め煮・茄子の揚げ浸し・イカ団子の含め煮・エビの芝煮・菜の花

**吸物**  
アサリ・蓮の実・  
貝割れ・梅型蒲鉾

#### 薬膳食品と効能

##### <甘草>

甘草とはマメ科のカンゾウの仲間の根でグリチルリチンが含まれて、強い甘みを有することから食品（醤油など）の甘味料として広く使われています。また、グリチルリチンは、鎮痛、健胃、効アレルギー作用、効潰瘍作用などがあるとされています。

##### <紅花>

体を温める作用があり冷え性によいとされ、また血液浄化作用もあるとされています。

##### <蓮の実>

鎮静（気持ちを落ち着かせる）作用や滋養強壮作用などがあるとされています。

##### <クコの実>

クコの実はナス科のクコ・ナカバクコの成熟果実で多くのビタミンやその他の成分が滋養強壮に作用するといわれています。また、肝臓の働きを正常にする作用があるとされています。

##### <黒酢>

黒酢は有機酸をはじめ必須アミノ酸、ビタミンB群を豊富に含んでおり、疲労回復に役立ちまた、善玉コレステロールを増加させる作用があるとされています。

##### <ヨーグルト>

ヨーグルトのビフィズス菌は腸内の環境を整える作用があるため、便秘予防によいとされています。

※食品効能についての参考資料（薬用食品学改訂第5版/5訂日本食品成分表）

# 第19回すずらん会報告

4月14日土曜日に、第19回すずらん会を地域活動支援センターうえるふえあで開催いたしました。今回は、参加者の皆様との交流を深めることを目的に、どら焼き作りながらの交流会を行いました。天候にも恵まれ、開放的な雰囲気の中でいつもと違ったすずらん会を行う事ができ、参加していただいたご家族の皆様からも、楽しかったとのご意見をいただきました。今回のご意見を参考に、今後もご家族の皆様が気軽に参加できる会を運営していけたらと考えております。次回は9月に第20回すずらん会を開催予定にしておりますので、初めての方も是非ご参加ください。

## 委員会紹介

### サービス向上委員会

サービス向上委員会は、平成15年3月に「患者サービス委員会」という名称で、患者様が安心・満足を得て治療が受けられるようにという目的で発足致しました。その後、平成17年6月に、患者様のみではなく、よりよいサービスの質の向上を病院全体で目指す為に「サービス向上委員会」と名称を改称し、現在に至っております。

委員の構成スタッフは、看護部門、事務部門、コメディカル部門等、サービスに関わる部門より選出され、現在、14名で、サービスに関わる全般の具体策を検討・立案・実施し、その実施状況を調査、必要に応じて見直しを行っております。サービス向上委員会の活動は、大きく分けて4つあります。

1つ目は、外来初診時の診察終了後に、「外来初診時アンケート」、退院の際に、「退院時アンケート」という2つのアンケートを患者様、ご家族様に依頼し調査を行っております。初診時アンケートの内容は、当日受付をしてから診察、会計までの職員の対応や待ち時間、その他は雰囲気・快適性、又、プライバシーの配慮がされているか等の内容です。退院時アンケートの内容は、職員の対応から入退院の際の手続きや病院の環境、入院生活、食事に関して等、入院中、快適な生活をおくれたかなどで構成されています。

2つ目は、病院内の8カ所（大地病棟玄関、

みどり病棟、めぐみ病棟、レスティア病棟閉鎖ゾーン、レスティア病棟図書コーナー、うみがめ病棟前廊下、うみがめ病棟、外来待合室）に「ご意見箱」を設置し、月に3回程度開封し、患者様、ご家族様の貴重な意見を聞いております。ご意見の内容に即した対応の実施、改善策を考え、月に1回開催される運営会議で報告し、回答の一覧を配布することで職員の周知徹底、意識向上を図っています。

3つ目は、年に1回院内研修にて、接遇マナーのビデオ鑑賞や、勉強会を開催しております。平成22年の9月は、外部から講師を招いて、主にクレーム対応の対処方法の研修会を実施しました。ビデオ鑑賞だけでなく講師の声、実技等により、職員一人ひとりが接遇マナーに関して高い意識付けが出来たこと感じさせられました。

4つ目は、年に一回、外来は約2週間、入院は約4週間の期間で、「患者様満足度調査」というものを実施しております。対象者は、全入院患者様、外来受診患者様で、アンケート調査を行っております。患者様満足度調査の内容は、初診時アンケートや退院時アンケートより、内容をより詳細にし、調査を行っております。アンケート調査の結果については、検討・考察を行い、調査報告書を作成し、各部署へ配布し、病院内に結果を掲示しております。

このようにサービス向上委員会では、患者様、ご家族様の貴重な意見を真摯に受け止め、少しでも入院している生活環境が快適に過ごせる様、外来患者様においては、いつでも受診しやすい病院である様、又、地域に住む方々に少しでも貢献出来る様、今後、職員一人ひとりが、サービスの向上に努められるように日々の活動を行ってまいります。

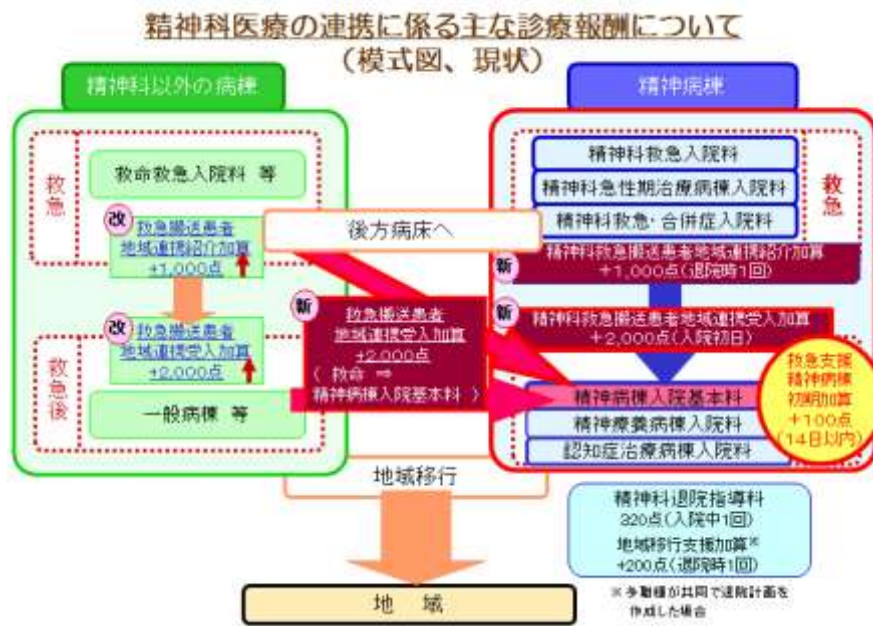


# 平成 24 年度診療報酬改定

地域連携を中心とした精神障害者支援の取り組みが近年、益々クローズアップされて来ております。おりしも当ウエルフェア九州病院は、平成 21 年 6 月 1 日より精神保健福祉法に基づく「応急入院指定病院」指定を受け、さらに特例措置を採ることが出来る精神科病院として認定されております。毎年の更新にはなりますが、平成 8 年より事業開始された精神科救急医療システム（病院群輪番式）実施に伴う精神科救急医療施設として指定を受け、同年 8 月 1 日からは精神科急性期治療病棟 I を、九州厚生局に受理され、現在に至っております。

これまでの実績として、精神科急性期治療病棟稼働後は、緊急・措置入院 8 件、応急入院 4 件あります。これは、南薩地域振興局との連携により行えているところです。この連携に加えて、今年度の診療報酬改定では、同じ精神科を主な業務とされている精神科病院との更なる連携を図り、精神科急性期治療の充実を図る為に次の様に評価されております。

精神科救急医療機関に緊急に入院した後、状態の落ち着いた患者について、あらかじめ連携している精神科医療機関に転院させた場合や、精神科医療機関が受け入れた場合を評価し、精神科救急医療機関と後方病床として精神科医療機関の連携を評価するものです。



★今回新設★

- ・精神科救急搬送患者地域連携紹介加算 1,000 点（当院）
- ・精神科救急搬送患者地域連携受入加算 2,000 点（近隣の連携を結んでいる精神科病院）

★算定要件★

精神科救急を担う医療機関に緊急入院した患者が入院日から 60 日以内に他の精神科医療機関に転院した場合に算定することになります。

この様に、地域連携、医療機関連携を図ることにより、在宅医療を推進することをこの新設の点数は目的としております。安心して地域（在宅）へ戻っていただく事を重要な役割と考え、更なる地域医療への貢献を、連携医療機関と目指すことが当病院の使命と考えます。

# 回想の窓



「枕崎では花見のことを『でばい』というのよ」

「そうそう、『二十日でばい』」

「お母さんが作ってくれたお弁当を持って、家族で行った。うちのお重は二段で」

「いやいや、うちのお重は三段で（ちょっと自慢げ）。こがやき・つけ揚げ・巻きずし。箸に持ってても、早く次を取らないと食べられちゃうって思って（笑）」

「花見と競馬はセットだった。どっちがなくても駄目みたいな・・・」（『そうそう』と皆が声をそろえる）

「瀬戸公園に自分が育てた馬を連れて行ってね、それで競馬をしていたよ。走れ走れと鞭打って！（鞭を打つジェスチャー）」

「格好いいね。怖くないの？」

「怖くないよ。走った後のお酒とお弁当は最高だったよ」

うみがめ病棟・デイナイトケアいその苑では、臨床心理士・看護師・介護福祉士などのスタッフにより『グループ回想法』を実施しています。メンバーの方がテーマに沿って当時の事を生き生きと語ってくださいます。当時の事を語るその表情はとても素晴らしく生き活きとしておられ、笑いあり涙ありの会をメンバーの方もスタッフもとても大切にしています。今回から会の中で語られたことを掲載します。事実かどうかではなく、その方の経験やその時代の雰囲気として感じて頂けたら幸いです。

## 作業療法室より Vol.4



作業療法課 栗野里江子

みなさんお疲れ様です。今回は作業療法室に新しく仲間入りした「wii」についてご紹介したいと思います。

ソフトは現在、wii fit,sports,party の三種類をご用意しております。画面を見ながら飛んでくるボールを頭で打ち返します。右に左に飛んでくるボールを頭で返したり、またはたまに飛んでくるヘルメットをよけたり・・・楽しみながら運動できます。



職員も思わず楽しんでしまいました。（汗）

私も家に一台欲しいな～

# 地域医療福祉連携課からのお知らせ

4月1日より更なる地域における医療機関等と密接な連携を図り、患者様が満足できる適正で質の高い医療を提供することを目的に、「医療福祉相談課」から「地域医療福祉連携課」へ部署名変更を行い、「地域連携係」「医療福祉相談係」「地域移行推進係」を設置いたしました。

「地域連携係」：関係機関との連携を強化することで、地域の保健医療福祉システムづくりに積極的に関わるとともに、患者様ならびにご家族様のニーズに合ったサービスづくりに努めてまいります。

「医療福祉相談係」：疾病・障害からの様々な「不安なこと」、「困ったこと」に対して、心理的・社会的な相談にあたり、精神保健福祉士が安心して生活を送れるよう支援しております。

「地域移行推進係」：入院患者様の退院に向けて、生活の質の維持と向上を目指し、安心して療養生活を送り、退院いただけるよう精神保健福祉士が各専門職と連携し支援しております。

お気軽にお問い合わせください。

ウエルフェア九州病院 地域医療福祉連携課

TEL：0993（72）0055【内線125】

FAX：0993（72）1199

※月曜日～土曜日 8：30～17：30

## 医師紹介

- ①略歴 ②専門分野 ③診療にあたり日常心掛けておられる点は？  
④患者様へのメッセージを一言・・・



濱田聡史 医師

- ①東京慈恵会医科大学卒業鹿児島大学心身医療科入局  
②心身医学  
③病気についてわかりやすい言葉でお伝えする。  
④皆さんに元気になっていただけるように頑張ります。



鮫島三恵子 医師

- ①鹿児島大学医学部卒業  
②精神科  
③患者様がお話ししやすい雰囲気をつくる。  
④よろしくお願いします。



河合佐和 医師

- ①藤田保健衛生大学医学部卒業鹿児島大学神経科精神科入局  
②精神科  
③患者さんの立場に立ち、誠実に正確な医療を行う。  
④何でも相談してください。患者様の力になれるよう頑張ります。



# お知らせ

■精神科当番 4/22(日) 6/3(日) ■内科当番 5/20(日)

2012年4月より外来診療担当が変更になりました

		月	火	水	木	金	土
午前	精神科	鮫島(拓)	鮫島(秀)	鮫島(秀)	宮内	鮫島(拓)	鮫島(秀)
		迫口	宮内	稲留	迫口	宮内	迫口
		下	稲留	下	河合	下	稲留
		濱田	鮫島(三)	濱田		鮫島(三)	
	内科	児島	—	福永	—	児島	—
午後	精神科(再診)	検査	濱田	鮫島(三)	回診	鮫島(秀)	休診
	内科	—	—	福永	—	—	



## 訪問看護ステーション まくらざき

・〒898-0089 鹿児島県枕崎市白沢北町191番地 TEL 0993-72-1508



## 高齢者グループホーム 福祿寿

・〒898-0022 鹿児島県枕崎市宮田町172番地1 TEL 0993-72-6608



## 社会復帰アパート ハイツ・ワンステップ

・〒898-0089 鹿児島県枕崎市白沢北町163番地



## 居宅介護支援事業所 うえるふえあ

・〒898-0089 鹿児島県枕崎市白沢北町191番地 TEL 0993-72-0055



## 共同住居 は一もに家

・〒898-0022 鹿児島県枕崎市宮田町175番地 TEL 0993-72-6855



## 地域活動支援センター うえるふえあ

・〒898-0089 鹿児島県枕崎市白沢北町191番地 TEL 0993-72-9242

### 編集後記

吹く風も柔らかな季節となりました。赤や黄色の鮮やかな花が目に入り、気持ちも晴れやかになります。4月には診療報酬・介護報酬の同時改定がありました。精神医療の質の向上・入院患者の地域生活など精神保健医療福祉の改革が求められています。患者様・利用者様により一層満足いただけるよう、サービス向上に努めてまいります。と思います。(前床)

### 発行人 鮫島秀弥 社会医療法人慈生会

〒898-0089 鹿児島県枕崎市白沢北町191番地

TEL (0993) 72-0055 FAX 72-1199

URL <http://www.welfare-kyusyu.or.jp/>

e-mail [jiseikai@welfare-kyusyu.or.jp](mailto:jiseikai@welfare-kyusyu.or.jp)

ウエルフェアは

健康・幸福・福祉・繁栄を意味します。